

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 44 回 LLW埋設後管理分科会 議事録

1. 日時 2023 年 1 月 23 日 (月) 14:00～15:15

2. 場所 Webex による WEB 会議

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 河西 (主査), 山本 (正) (副主査), 梅原 (幹事), 関口, 白石, 千々松, 後藤, 山本(修), 長峰, 三木, 高崎 (11 名)

(代理出席委員) 山岡 (鈴木代理), 山田 (辻家代理) (2 名)

(出席常時参加者) (0 名)

(欠席委員) 徳永, 宮脇, 仲田, 久田, 大石, 小峯 (6 名)

(欠席常時参加者) 齋藤, 大畑 (2 名)

4. 配布資料

F14SC44-00	第 44 回 LLW 埋設後管理分科会議事次第
F14SC44-01	第 43 回 LLW 埋設後管理分科会議事録(案)
F14SC44-02	人事について (LLW 埋設後管理分科会)
F14SC44-03	第 90 回標準委員会での本報告後の書面投票【SC22-15】で頂いたコメント対応表 (分科会事務局からのコメントを含む)
F14SC44-04	第 90 回標準委員会での本報告後の書面投票【SC22-15】で頂いたコメント対応に伴う改定前後比較表
F14SC44-05	低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻しの方法及び施設の管理方法—中深度処分編: 20XX (埋設後標準改定案)

5. 議事及び確認事項

(1)出席者/資料確認

梅原幹事より, 委員総数 19 名中代理を含め 13 名の出席があり, 分科会の成立要件を満たしている旨の報告があった。続いて配布資料の確認が行われた。

(2)人事について

梅原幹事より, 資料・F14SC44-02 を用いて, 人事の説明があり, 関口委員の所属変更 (日本原燃→戸田建設) が報告された。

(3)前回議事録の確認

梅原幹事より, 資料・F14SC44-01 を用いて, 前回 (第 43 回) 議事録(案)の確認が行われ, 以下の質疑があり, 内容を反映して正式議事録とすることとなった。

- ・専門部会へ報告することに対する決議をとることについて委員の 2/3 以上とあるが, 分科会においては 3/4 以上の承認が必要である。実際には出席していた委員全員の承認を確認していたと記憶しているので, 議事録の修正が必要ではないか。(山本副主査) →拝承。委員全員の承認を確認した, と記載を修正する。(梅原幹事)

(4)埋設後管理標準の改定

千々松委員より資料・F14SC44-03～05 を用いて説明があり、特にコメントはなかった。

- ・専門部会へ報告することに対して決議をとるため、挙手をお願いする。（河西主査）
⇒出席委員全員の承認が得られたため、了承された。

(5)その他

- ・第 41 回分科会の議事録を、分科会で最終確認ができていなかったことから、誤記訂正 2 点がこれで問題ないか再度確認したい。（梅原幹事）
⇒誤記の箇所を Webex の画面共有で提示のうえ、出席委員全員の承認が得られたため、了承された。
⇒承認が得られたため、学会事務局へホームページへの議事録の掲載を依頼する。（梅原幹事）
- ・11 月の第 92 回専門部会で、8 月の第 91 回専門部会での最終報告後の決議投票【FTC22-01】で頂いた意見対応表を提示するにあたり、メール審議で確認していたが、その際に分科会委員からいただいたコメントへの対応については分科会委員へ紹介していなかったためここで改めて報告する（分科会委員のコメント対応の箇所を Webex の画面共有で提示）。（梅原幹事）
⇒今回のメール審議は、期間その他の方法が変則的であったと認識しているので、後付けにはなるが、分科会場で結果的にプロセスに問題がなかったことを確認するとよいのではないか。（山本副主査）
⇒この場で確認するというのではなく、改めてメール審議の内容を資料に落とし込んで確認するということがよいか。（梅原幹事）
⇒今回の分科会だけで判断ができるのであればこの場で確認でもよい。それが難しいなら、次回分科会に回してもよいが、委員からの了解が得られていることを今回示せばいいのでは。（山本副主査）
⇒ここでコメント対応表の内容を説明するのではなく、手続論ということでよいか。（河西主査）
⇒そのとおり。（山本副主査）
⇒専門部会のコメント対応表はメール審議時に既に配布されていて確認いただいているが、今日の段階では出席者に了解をいただくこととして、本日は欠席者もいるので次回の分科会でもこの件について改めて確認することにする。コメント対応表の取扱いについて問題なければ挙手をお願いする。（河西主査）
⇒出席委員全員の承認が得られたため、了承された。
- ・標準改定案の誤字脱字チェックを、3 月 1 日の次回標準委員会に間に合うよう実施したい。作成者の千々松委員及び関口委員を除く 17 名で、委員 1 人当たり約 10 ページのチェックをお願いしたい。（梅原幹事）
⇒実施期限はいつ頃になるか。（河西主査）
⇒2 月 17 日（金）頃を締切りとしてはどうか。（梅原幹事）
⇒安全評価の分科会では、単純にページ数で割り振るのではなくページ数も勘案して附属書などの単位ごとに確認する形としている。また、同じページを 2 人でチェックする形としている。（山本副主査）

- 分担の詳細については事務局で検討することとして、誤記チェックの実施について決議をとる。(河西主査)
- ⇒出席委員全員の承認が得られたため、了承された。
- 安全評価標準の方法を参考に、検討する。(梅原幹事)
- ・施設検査分科会では、L1 施設検査標準の廃刊可否を議論している。L2L3 埋設後管理標準の廃刊可否について、分科会で議論する必要はないか。(河西主査)
- 専門部会幹事から連絡はあったが明確な依頼ではなかったことから、まだ電事連から標準委員会へ正式な申入れはないという認識のため、検討はまだ先だと考えている。(梅原幹事)
- 他の分科会の議論では、専門部会幹事とのやり取りなども紹介されていた。(山本副主査)
- 施設検査分科会では専門部会幹事へ確認し、分科会でも議論を進めていく必要があると考え1月20日の分科会で状況の説明と議論を行った。まだ標準委員会や専門部会でもはっきりと結論が出ていないと聞いている。(山田委員代理)
- ・他の分科会での状況も含め、状況を共有させていただきたい。2月1日に専門部会、3月1日の標準委員会で順調であればパブコメへと進む。これと並行して転載許諾の確認を実施中で、標準委員会へのパブコメまでに転載許諾の対応が完了することを目指している。2月1日の専門部会 ppt 資料も他の分科会と同様に作成中。(関口委員)
- 専門部会の ppt 資料については、コメント対応のみなので必要かどうかを学会事務局へ確認している。(梅原幹事)

(6)今後の予定

- ・次回分科会は、2月1日の専門部会で何かあれば開催される可能性があるが、順調にパブコメへ進めばパブコメ結果を受けて4月に入ってから開催となる。パブコメでコメントがなければ4月の開催もない可能性があるため、状況次第で次回分科会を調整する。(梅原幹事)

以上